

みとしん MITOSHIN Business survey 景気動向調査

vol.66

2018年1~3月期

業況判断は大幅改善

〈概況〉

今期(2018年1~3月期)の茨城県内中小企業の業況判断D.Iは、前期(2017年10~12月期)と比べ5.0ポイント上昇の3.2と大幅改善となりました。来期(2018年4~6月期)については3.2と、横ばいの見通しとなっています。

収益面では、前期比売上判断D.Iが1.0ポイント悪化の0.0、同収益判断D.Iは0.2ポイント改善の▲1.2となりました。

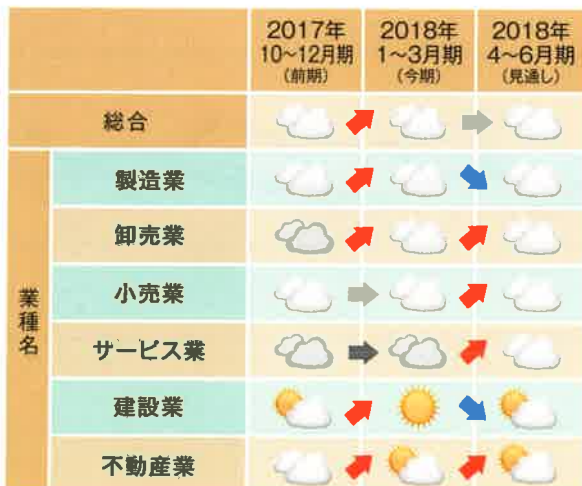
雇用面では、人手過不足判断D.Iが▲13.1と前期比1.1ポイント改善するも、依然として人手不足感の強い状態が続いています。来期予想は▲13.9と、先行きも不足感が続く見通しとなっています。

資金繰り判断D.Iは▲8.5と、前期比2.9ポイント改善し、来期予想では▲5.6と、さらに改善を見込んでいます。

設備投資実施企業割合は、2.1ポイント上昇の11.4%となり、来期予定は11.2%と今期実績と比べほぼ横ばいを見込んでいます。

業種別業況判断D.Iについては、製造業、卸売業、建設業、不動産業の4業種で大幅改善、小売業、サービス業の2業種では横ばいとなりました。また、地域別業況判断D.Iについては、全ての地域で大幅改善となりました。

【業種別天気図】



【地域別天気図】



この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成しております。

▶は業況改善、◀は業況悪化、⇨は業況変化なしを表しています。



●みとしん景気動向調査とは

本調査は水戸信用金庫のお取引先(茨城県内)の経営者を対象として、各店の担当者が質問事項を用意し聞き取る方法で行い、各質問事項で「増加した」(良い)とする企業が全体に占める構成比と、「減少した」(悪い)とする企業の構成比との差(判断D.I)を用いて分析を行っています。

対象先数は、製造業92社、卸売業59社、小売業98社、サービス業93社、建設業99社、不動産業59社の合計500社で、今回の回答先数は496社(回答率99.2%)でした。

本調査結果は、当金庫が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当金庫が正確性および完全性を保証するものではありません。



このまちの夢がきこえる

水戸信用金庫

景況

今期(2018年1~3月期)の業況判断D.Iは、前期より5.0ポイント大幅改善の3.2となり、前回調査時における今期予想の▲1.0を大きく上回る結果となりました。

収益面では、前年同期比売上額判断D.Iは▲2.0と前期比2.0ポイント改善、同収益判断D.Iは▲2.2と、同5.8ポイント大幅改善となった。

販売価格判断D.Iは前期比4.0ポイント改善の2.0となり、仕入価格判断D.Iは前期比2.1ポイント改善の11.7となりました。

雇用面では、人手過不足判断D.Iが▲13.1(マイナスは人手「不足」超、前期は▲14.2)と、悪化超幅が前期比1.1ポイント縮小したものの、依然として人手不足感の強い状態が続いています。また、残業時間(「増加」-「減少」)D.Iは▲0.4となり、前期と比べ、悪化超幅は0.8ポイント縮小しました。

資金繰り判断(「楽」-「苦しい」)D.Iは▲8.5と、前期比2.9

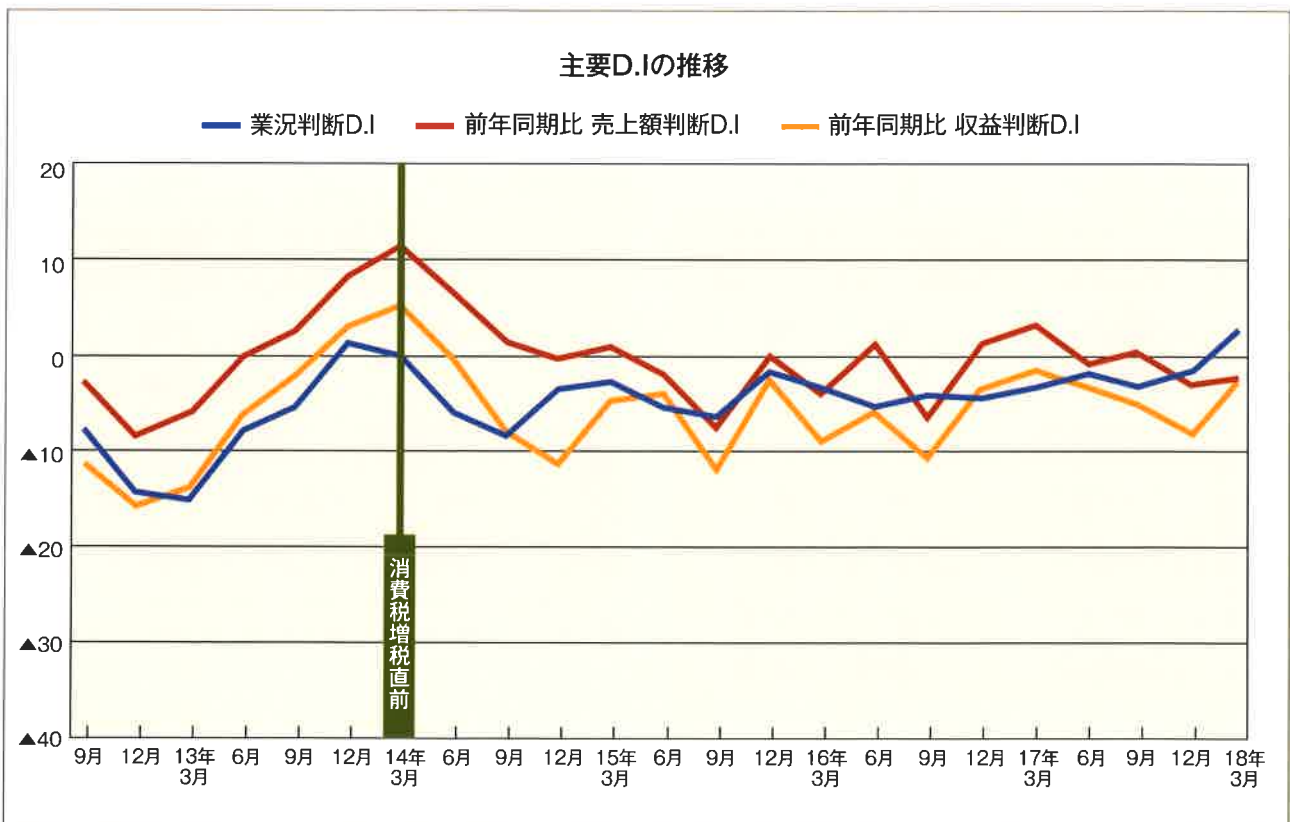
ポイント上昇となり、来期もさらに改善を見込んでいます。

設備投資実施企業割合は、前期比2.1ポイント上昇の11.4%となりました。

業種別の業況判断D.Iは、製造業(0.0→3.3)、卸売業(▲11.9→▲3.5)、建設業(7.1→21.2)、不動産業(5.1→10.2)と大幅改善となり、小売業(▲4.1→▲4.1)、サービス業(▲8.6→▲8.6)で横ばいとなりました。

地域別の業況判断D.Iは、県央(▲2.9→▲0.7)、県北(6.8→10.7)、県南(▲3.2→1.6)、県西(▲15.0→10.0)、鹿行(▲6.0→2.0)と全ての地域で大幅改善となりました。

主要D.Iの推移



見通し

来期2018年(4~6月期)の予想業況判断D.Iは3.2と、今期実績比、横ばいの見通しとなっています。予想売上額判断D.Iは2.0で今期実績比2.0ポイントの改善、予想収益判断D.Iは▲0.4と、今期実績比0.8ポイントの改善を見込んでいます。

業種別の予想業況判断D.Iは、卸売業、小売業、サービス業、不動産業の4業種で改善の見通しとなっており、地域別では、県北、県南、鹿行の3地域で改善を見込んでいます。

製造業 ～今期改善、来期は悪化予想～

Manufacturing industry

今期の業況判断D.Iは3.3と、前期比3.3ポイントの改善となりましたが、来期は0.0と悪化を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iは▲2.2と前期比6.5ポイントの大幅悪化、同収益判断D.Iは1.1の横ばいとなりました。

資金繰り判断D.Iは▲9.9と2.3ポイントの悪化となりました。

中分類業種別では、「部品加工型 製造業」で7.4ポイント、「その他の製造業」で13.0ポイントの大幅改善、「機械関連型 製造業」で横ばい、「建設関連型 製造業」で0.8ポイント、「消費財型 製造業」で11.8ポイントの大幅悪化となりました。

製造業における経営上の問題は？ (複数回答)

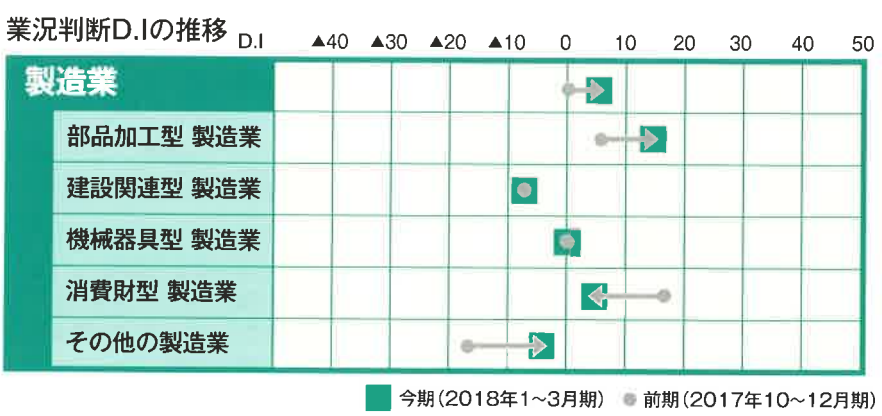
- ① 売上の停滞・減少……………37.4%
- ② 同業者間の競争の激化…35.2%
- ③ 利幅の縮小……………33.0%

問題に対する当面の重点経営施策は？ (複数回答)

- ① 販路を広げる……………62.6%
- ② 経費を削減する……………50.5%
- ③ 提携先を見つける………16.5%

調査員のコメントから

●安定した受注の確保が出来ないことから、スポット的な受注を多く受けることで、売上高に波があり、資金繰りも厳しい状況が続いている。(金属加工業)



卸売業 ～今期改善、来期も改善予想～

Wholesale business

今期の業況判断D.Iは▲3.5と、前期比8.4ポイントの改善となりました。来期は▲1.8と、さらに改善を予想しています。

前期比売上額判断D.Iは0.0、同収益判断D.Iは3.5と、それぞれ前期比8.5ポイント、同15.4ポイントの大幅改善となりました。

資金繰り判断D.Iは▲1.8と、前期比11.8ポイントの改善となりました。

中分類業種別では、「農畜産物・水産物卸売業」で10.7ポイントの大幅改善、「建築材料卸売業」で5.0ポイント、「その他の卸売業」で9.1ポイントの改善となりました。一方で、「食料・飲料卸売業」で3.4ポイントの悪化となりました。

卸売業における経営上の問題は？ (複数回答)

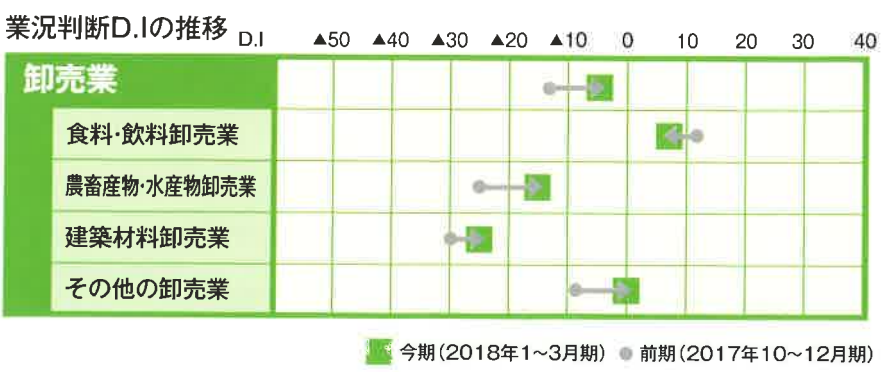
- ① 同業者間の競争の激化…35.1%
- ② 利幅の縮小……………33.3%
- ③ 売上の停滞・減少……………29.8%

問題に対する当面の重点経営施策は？ (複数回答)

- ① 販路を広げる……………61.4%
- ② 経費を削減する……………45.6%
- ③ 情報力を強化する………24.6%

調査員のコメントから

●大手メーカーと取引をしているので、相手先の生産量が当社への影響が非常に大きい。ここ数カ月は受注が増加し、売上が大幅に伸びている。(金属材料卸)



小売業 ~今期横ばい、来期は大幅改善予想~

retail business

今期の業況判断D.Iは▲4.1と、前期比横ばいとなりました。来期は2.1と、改善を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iは▲8.2と前期比4.1ポイントの悪化、来期は同収益判断D.Iも▲11.3と、同5.2ポイントの悪化となりました。

資金繰り判断D.Iは▲7.2と前期比7.1ポイントの改善となっています。

中分類業種別では「繊維・衣類・身のまわり品小売業」で28.6ポイントの大幅改善、「飲食店」で5.9ポイント、「その他の小売業」で5.3ポイントの改善となりました。

また、「飲食料品小売業」で9.5ポイント、「自動車・自転車小売業」で25.5ポイントの大幅悪化となりました。

小売業における経営上の問題は？(複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…36.1%
- ② 売上の停滞・減少 ……29.9%
- ③ 商圏人口の減少…20.6%

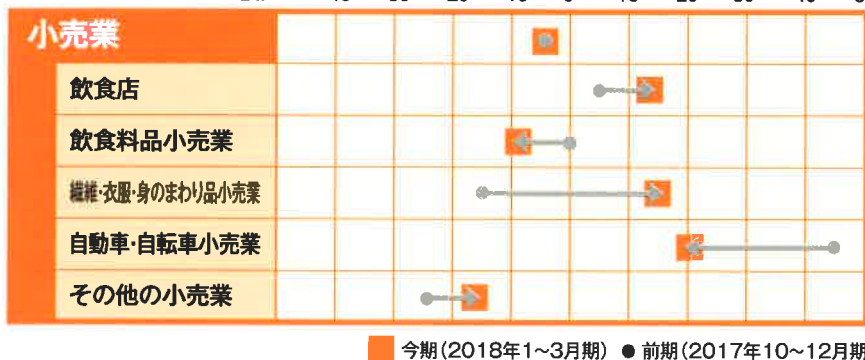
問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 経費を削減する…57.7%
- ② 品揃えを改善する ……19.6%
- ③ 宣伝・広告を強化する…17.5%

調査員のコメントから

●最近の傾向として、店舗で実物を確認(見たり触れたり)して、最終的にネットで価格の比較をして購入するお客様が増えている。(靴小売業)

業況判断D.Iの推移 D.I ▲40 ▲30 ▲20 ▲10 0 10 20 30 40 50



サービス業 ~今期横ばい、来期は大幅改善予想~ service business

今期の業況判断D.Iは▲8.6と、前期比と変わらず横ばいとなりました。来期は▲3.2と、今期実績比5.4ポイントの改善を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iは▲5.4、同収益判断D.Iは▲7.5と、それぞれ前期比5.4ポイント、同7.5ポイントの大幅悪化となりました。

資金繰り判断D.Iは▲18.3と前期比2.2ポイントの悪化となりました。

中分類業種別では、「自動車整備及び駐車場業」で30.9ポイント、「娯楽業」で14.3ポイントの大幅改善となりました。一方で、「旅館業」で50.0ポイント、「洗濯・理容・浴場業」で15.0ポイントの大幅悪化となり、「その他のサービス業」で4.9ポイントの悪化となりました。

サービス業における経営上の問題は？(複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…51.6%
- ② 売上の停滞・減少 ……34.4%
- ③ 利幅の縮小…18.3%

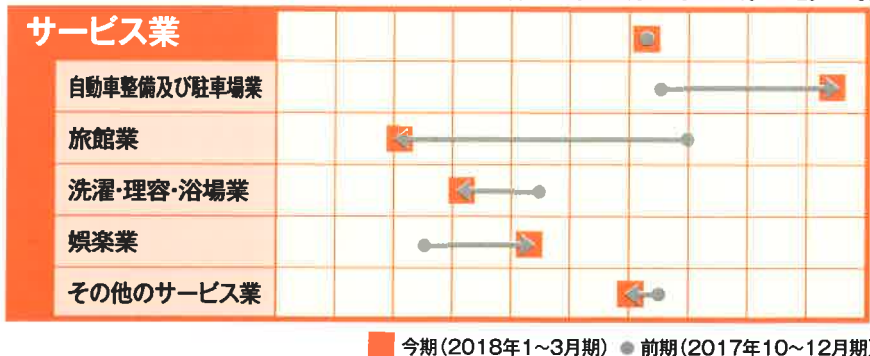
問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 経費を削減する…52.7%
- ② 販路を広げる…44.1%
- ③ 宣伝・広告を強化する…29.0%

調査員のコメントから

●主な利用目的が学生の合宿であることから、春・夏と比較して冬の時期は売上が非常に落ち込む時期であり、改善策を考えた。(旅館業)

業況判断D.Iの推移 D.I ▲60 ▲50 ▲40 ▲30 ▲20 ▲10 0 10 20 30



建設業

～今期大幅改善、来期は悪化予想～

construction business

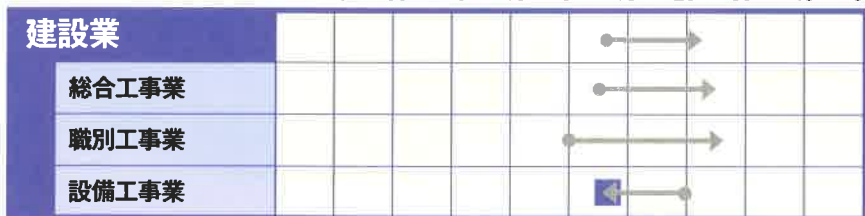
今期の業況判断D.Iは21.2と、前期比14.1ポイントの大幅改善となりました。来期は8.1と、今期実績比13.1ポイントの悪化を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iは12.1と前期比5.0ポイントの改善、同収益判断D.Iは9.1と同7.1ポイントの改善となりました。

資金繰り判断D.Iは▲4.0と、前期比8.1ポイントの改善となりました。

中分類業種別では、「総合工事業」で18.3ポイント、「職別工事業」で25.8ポイントの大幅改善となりました。一方で「設備工事業」は11.3ポイントの大幅悪化となりました。

業況判断D.Iの推移 D.I ▲40 ▲30 ▲20 ▲10 0 10 20 30 40 50



■ 今期 (2018年1~3月期) ● 前期 (2017年10~12月期)

建設業における経営上の問題は？(複数回答)

- ① 利幅の縮小……………37.4%
- ② 同業者間の競争の激化…34.3%
- ③ 売上の停滞・減少……………30.3%

問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 経費を削減する……………56.6%
- ② 販路を広げる……………50.5%
- ③ 技術力を高める……………23.2%



調査員のコメントから

●現在は売上高に大きな変化はなく推移しているが、今後、若い従業員の技術力不足や利幅の縮小が気がかりである。(工事業)

不動産業

～今期改善、来期も改善予想～

real estate business

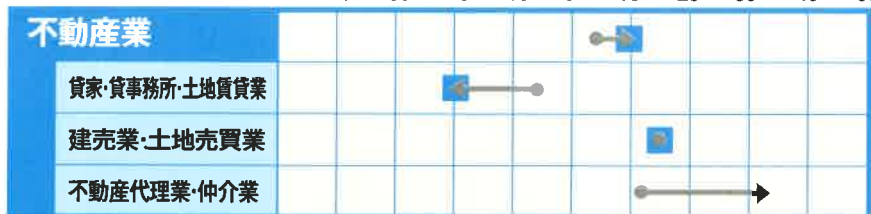
今期の業況判断D.Iは10.2と、前期比5.1ポイントの改善となり、来期も16.9と、今期実績比6.8ポイントの改善を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iは5.1と前期比横ばい、同収益判断D.Iは0.0と同5.1ポイントの悪化となりました。

資金繰り判断D.Iは▲6.8と前期比5.1ポイントの悪化となりました。

中分類業種別では、「不動産代理業・仲介業」で19.5ポイントの大幅改善、「建売業・土地売買業」では横ばいとなりました。「貸家・貸事務所・土地賃貸業」では13.8ポイントの大幅悪化となりました。

業況判断D.Iの推移 D.I ▲40 ▲30 ▲20 ▲10 0 10 20 30 40 50



■ 今期 (2018年1~3月期) ● 前期 (2017年10~12月期)

不動産業における経営上の問題は？(複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…44.1%
- ② 商品物件の不足……………33.9%
- ③ 売上の停滞・減少……………25.4%

問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

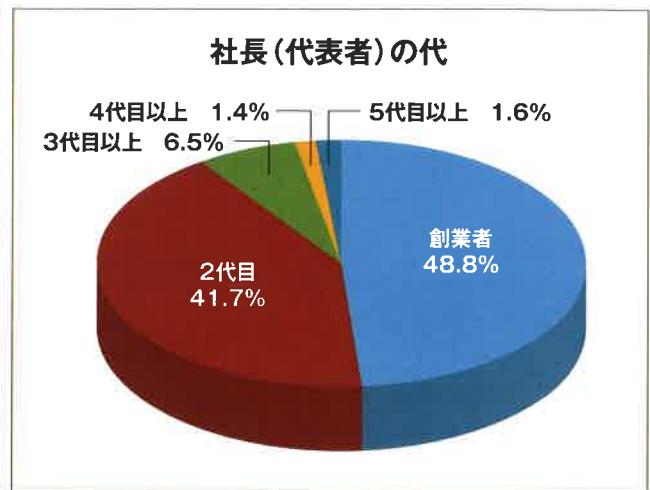
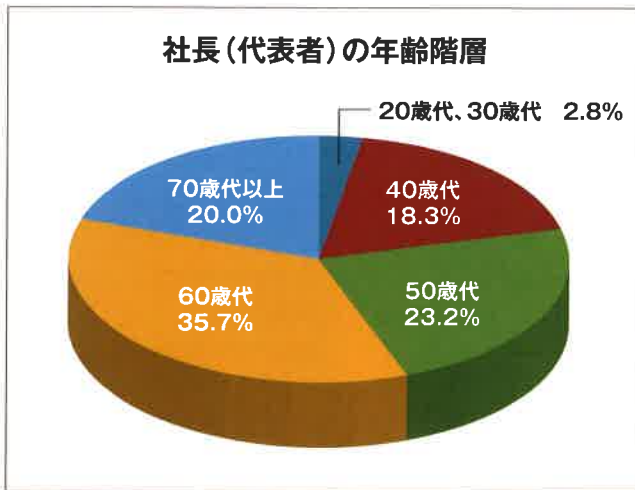
- ① 情報力を強化する……………44.1%
- ② 宣伝・広告を強化する…40.7%
- ③ 経費を削減する……………33.9%



調査員のコメントから

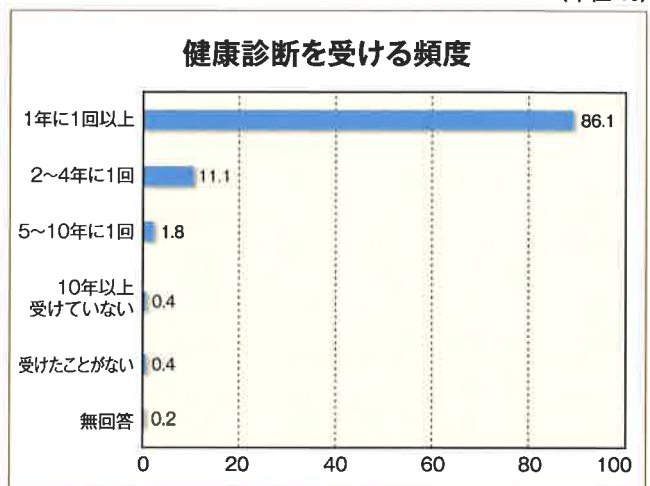
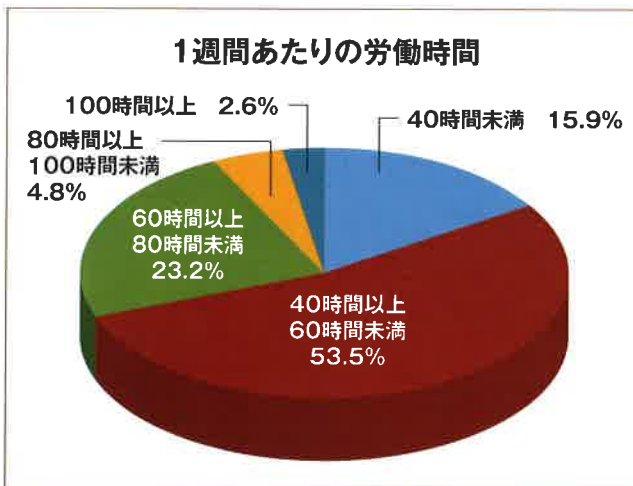
●建売住宅の売れ行きが順調に推移している。県南地域では在庫が不足しており、手持ち商品(物件)の不足を懸念している。(土地・建物販売)

Q.1 現在の社長(代表者)の年齢層と、何代目にあたりますか?



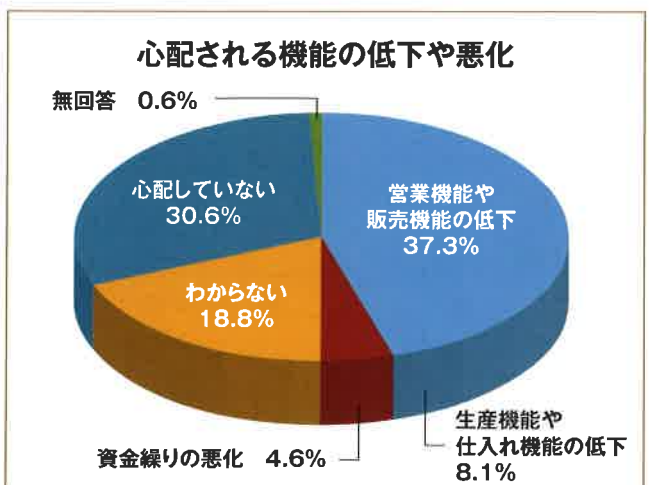
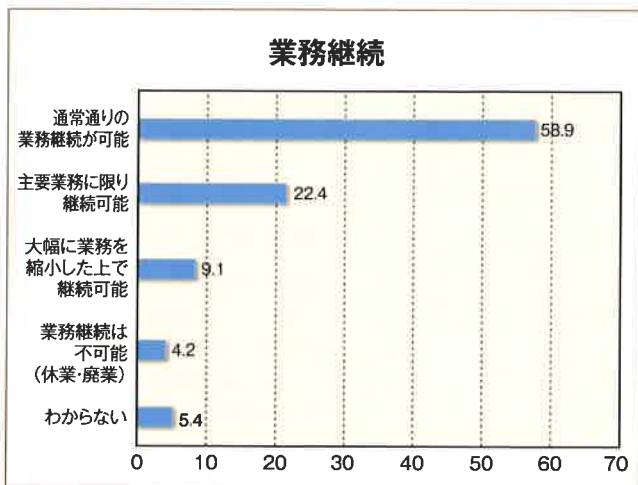
Q.2 社長(代表者)の労働時間と、健康診断の受診頻度についてどのくらいですか?

(単位:%)



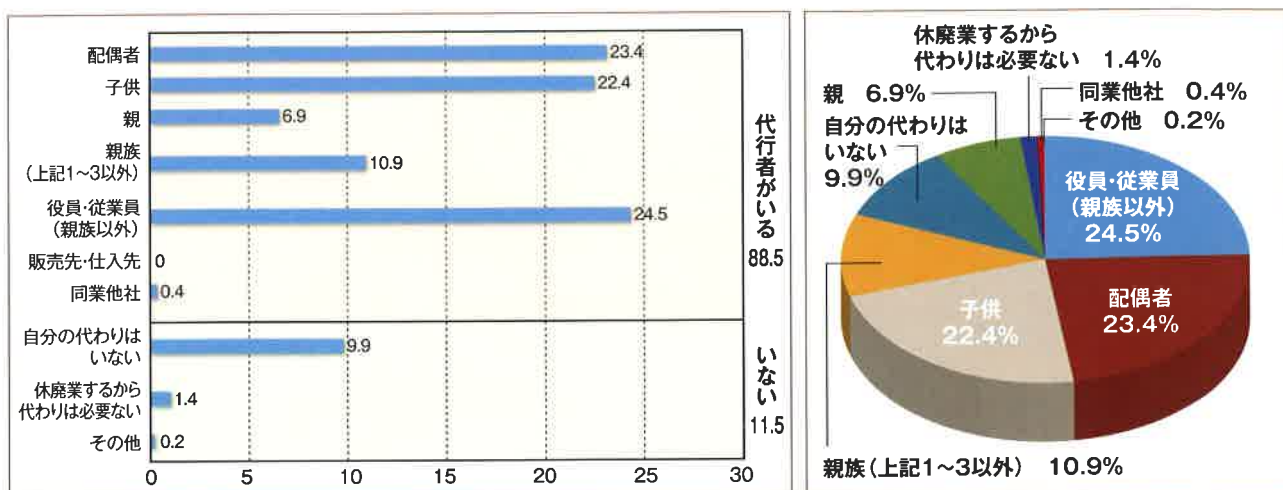
Q.3 社長(代表者)が1か月休養を余儀なくされた場合の対応は可能でしょうか?

(単位:%)



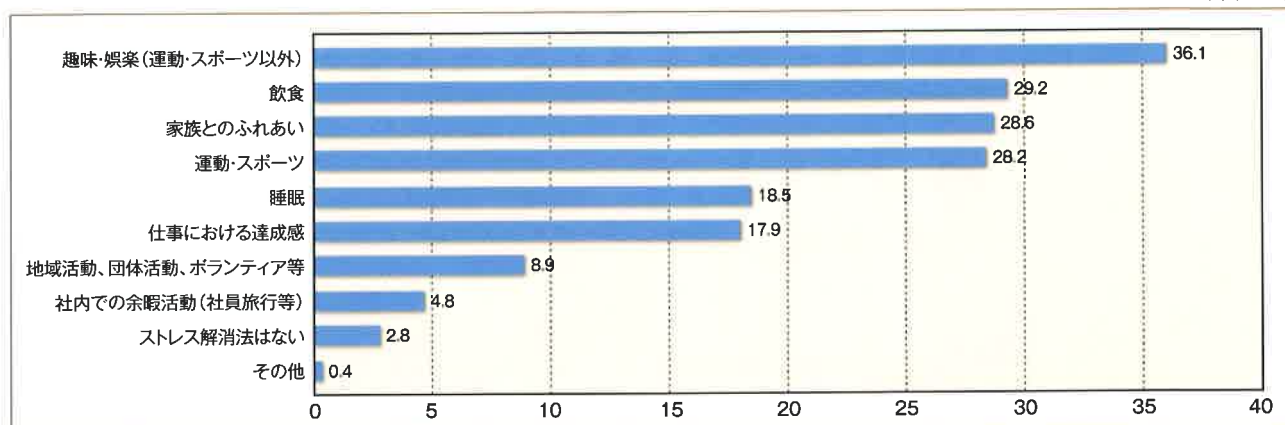
Q.4 問3の想定で、社長(代表者)の代行者はいらっしゃいますか?

(単位:%)



Q.5 社長(代表者)のストレス解消法は何ですか? (複数回答可)

(単位:%)



特別調査より

中小企業の場合、社長(代表者)(以下「経営者」とする)の存在が事業継続に与える影響が大きいことから、今回は経営者の健康管理と事業の継続について調査しました。

Q1:「現在の経営者の年齢層」は、「60歳代」が35.7%と最も高く、次いで「50歳代」が23.2%、「70歳代」が20.0%と続き、高齢化が進んでいることが見受けられます。「現社長が何代目か」については、「創業者」が48.8%、「2代目」が41.7%の結果から、社長交代(事業承継)が行われつつあることが見受けられます。

Q2:「1週間当たりの労働時間」については、「40時間以上60時間未満」が53.5%と過半数を占め、次いで「60時間以上80時間未満」が23.2%の回答であるものの、「80時間以上100時間未満」が4.8%、「100時間以上」が2.6%と、オーバーワークの経営者も見受けられます。「健康診断受診頻度」については、「1年に1回以上」が86.1%と高い割合を占めているものの、「10年以上受けていない」「受けたことがない」と回答した割合が、それぞれ0.4%ありました。

Q3:「経営者が長期休養を余儀なくされた場合の業務継続」について、「通常通りの業務継続が可能」と回答した割合が58.9%と過半数を占める一方で「業務継続は不可能」と

回答した割合は4.2%ありました。また、「同様の想定で心配される機能の低下や悪化」については、「営業や販売の機能低下」が37.3%と最も多い回答で、その他「生産機能や仕入機能の低下」「資金繰りの悪化」など機能低下に懸念のある企業が過半数を超えた反面「心配していない」との回答も30.6%ありました。

Q4:Q3と同様の想定で「経営者の事業を出来る人の有無」について、「代行者がいる」と回答した割合が88.5%(内、親族が63.6%、従業員等が24.5%)である一方で、「代行者がいない」と回答した割合が11.5%(内、「自分の代わりはない」は9.9%、「休廃業するから必要ない」は1.4%)ありました。

Q5:「経営者のストレス解消」について、「趣味・娯楽」と回答した割合は36.1%と最も高く、次いで「飲食」29.2%、「家族とのふれあい」28.6%、「スポーツ」28.2%と続く一方で、「解消法はない」の回答も僅かではありますが2.8%ありました。